

2017年4月5日  
福島っこ元気村キャンプ実行委員会  
委員長 堀内拓馬

## 2017 春 福島っこ元気村キャンプ 報告書 ～元気村6年目に突入！みんなで作る新たなスタイルへ！～

### 報告書の目的

この活動でおきている事を、ありのままにお伝えしようとするものです。結果を伝えるだけではなく、その背景や、ねらい、心情などをお伝えすることで、震災支援や福島との関わりが、今日、どういう状況にあるのか感じて頂ければと思います。その事で私たちのキャンプへの、福島への、被災地への関心が保たれれば嬉しく思います。

### 約束の5年を終え、新たな6年目に向かう元気村キャンプ

キャンプ開始当初に「最低でも5年は続ける！」と宣言して始まった元気村キャンプ。2016夏のキャンプで約束の5年が終わりました。6年目を迎え、続けてゆくこと。言うのは容易いですが、実際はそう簡単ではありません。

この春のキャンプを迎える前までの私たちの状況として・・・

- ① 参加者の子供たちの数は変わらず横ばい
- ② 資金を集めてゆくことが毎年難しくなっている
- ③ 中心となるスタッフの数が足りない
- ④ お世話になっている団体との付き合いを大切にしている

といった感じです。もう少し詳しく説明してゆきますね。

#### ① 参加者

私たちの場合、参加者の子供たちの定員はバスのサイズで決まります。費用の関係で中型バスを使うことが多いのですが、そうすると24人になります。これまで何度か大型バスを借りて24名を越えることもありましたが。

参加の募集はこれまでに元気村に参加した家庭に優先的に案内をしています。そこで定員に達しなかった場合、保養キャンプの募集ウェブサイトに掲載します。

ほとんどの場合、これまでに参加した子供たちと、その子たちのお友達で24名の定員がいっぱいになります。たまに4～5名の空きがあることがあるのですが、募集サイトに掲載すると、翌日電話がかかってきて、数日の内に定員一杯になるといった状況です。

このような、休暇を利用して原発被災地から離れ、不安が少ない生活を送ることで心身を癒す取り組みのことを「保養キャンプ」と呼ぶのですが、保養のニーズの高さは、キャンプの受付窓口を担当するととてもよく実感できます。

参考：数字からみる福島っこ元気村キャンプ

<http://genkimura.letsgoout.jp/2016/12/18/14929/>

参考：保養キャンプの募集ウェブサイト「ほよ～ん相談会」

<http://hoyou.isshin.cc/>

## ② 資金集め

5年前と今では大分違います。震災直後はある程度まとまった資金を確保できる助成プログラムがたくさんあって、震災向け資金も潤沢でしたでしょうから、割と容易に助成金を頂くことができました。

年数が経つにつれ、県外で支援している私たちのような団体よりも、被災当事者の自立支援を行う助成プログラムへ予算が当てられてゆきました。こうした流れは間違いではないのですが、結果として、私たちのような団体が利用できるプログラムが少なくなってゆきました。

現在は国の予算で福島県が実施する、いわゆる「ふくしまっ子事業」というものがあるのですが、これを利用できるのは福島県内の社会教育関係の団体のみであり、私たちが利用するには、県内の教育関係団体と連携する必要があります。申請すればすぐに利用できるといったものではありません。

また直近の数回のキャンプでは、中間支援団体や、サッカーJリーグからの支援を受けることができたため、一般からの寄付にあまり頼らずにキャンプを実施することができました。ただこうした支援は今後も安定的にうけることができるかわからないものであり、自分たち主導で資金を確保する手段をもつ必要性を感じています。

参考：社会教育団体自然体験活動支援事業

<http://www.syakai.fks.ed.jp/project7/project7.html#%E7%A4%BE%E6%95%99>

参考：Jリーグ -TEAM AS ONE-

<http://www.jleague.jp/aboutj/teamasone/>

## ③ 中心となるスタッフ

運営スタッフとボランティアスタッフの大きく2つに分かれます。運営スタッフはキャンプを中心的に企画運営してゆくスタッフ。ボランティアスタッフは主にキャンプ中の活動を支えるスタッフです。

回を重ねるごとにボランティアスタッフの方たちのネットワークができつつあり、前回よりも、今回、今回よりも次回といった具合に、手伝ってくださる人の数も増え、増えたボランティアの方がまた人を呼んでくださるという好循環に恵ま

れています。

ただ運営スタッフに関しては、十分とはいえ人数でやりくりしています。事前の準備から、キャンプ中、終わった後の片付けや、報告、お礼などやるべきことはたくさんあって、なかなか手がいないのと、これまで運営を続けてきたスタッフも家庭や仕事など、置かれている状況が変化し、続けてゆくことが難しくなっています。

#### ④ お世話になっている団体とお付き合い

ここ数年、春は生活クラブ東京様の協同村ひだまりファームを。夏は NPO 法人 日の出太陽の家ボランティアセンター様の武家屋敷を利用させて頂いています。

両施設ともホテルや旅館ではありませんから、私たちのような大人数のグループが利用すれば、利用前の準備や、利用後の片づけが大量に発生します。布団を干すにも数十人分、部屋やお風呂、トイレの掃除にしても広大にあるわけで、キャンプ中は毎日掃除して、最終日には大掃除をしますが、それでも間に合いません。

こうした負担がありながらも元気村キャンプの活動に理解を示して下さり、便宜を図って頂いているという状況です。そもそも参加者で 20 名以上。スタッフを入れると 40 名を越える日もある私たちのキャンプ。一般の宿泊施設を利用して、上げ膳据え膳の生活をしたら、とても費用をまかなうことはできません。

両施設とも豊かな自然に囲まれており、子供たちが自然の中にいると感じながら生活することができます。こうした施設を提供して下さる方々がいらっしやなければ、元気村キャンプは成立しません。

私たちのにとってとても大切な支援者であり理解者です。通年を通して何がしかのお付き合いをさせて頂いています。

参考：協同村ひだまりファーム

<http://tokyo.seikatsuclub.coop/life/enjoy/hidamari.html>

参考：NPO 法人 日の出太陽の家ボランティアセンター

<http://www.taiyonoie.org/publics/index/17/>

・・・とこうした状況に囲まれながら私たちは 6 年目に突入しました。

さてこの春はどんなキャンプだったのでしょうか？

以下、ご報告いたします。

### **春は卒業のシーズン！あの子ども、この子どもみんなやってきた！**

春の元気村では卒業式をおこなうことが定番になっています。新入学の子どもたち、新社会人になる学生スタッフをお祝いするのです。その際に子どもたちやスタッフが手書きした寄せ書きを贈るのですが、みんなこれが欲しいのか、単に祝って欲しいのか、とにかくたくさんやってきます。

今回は・・・

新中学生 6人

新高校生 8人

新大学生 4人

新社会人 4人

と、22人ものお祝いが！

いつもはサプライズでこそ隠れて書いていた寄せ書きも、こんなに多くては隠し通すこともできません。みんなでワイワイ騒ぎながら書きました。

この春、新高校生になる8人ですが、この子どもたちはこれまで元気村に参加していた福島っこです。その子どもたちが中学を卒業し、スタッフとして手伝いにきてくれました。

なので福島からの参加は・・・

小学生 17人

中学生 4人

新高校生 8人

全部で29人の福島っこです。新高校生は「福島っこスタッフ」としてボランティアスタッフと同じ扱いで参加しました。

### **移動は新幹線！引率はお母さんスタッフ！**

これはこの春から導入した新しい取り組みです。高騰するバス代。さらにこの春は24名を超える参加がわかっていましたから、それなら・・・ということで新幹線移動にチャレンジしました。

ただ春は子どもたち、予定が多いんですよね。離任式とか、新入学のオリエンテーションとか。どうしてもはずせない用事がある子どもたちが遅れて参加できるという点も新幹線移動のメリットです。

なので・・・

キャンプ初日 16人  
2日目 11人  
3日目 2人

という具合にやってきました。しかも初日と2日目は乗車駅が福島駅と、郡山駅の二箇所。受付も必要です。こうした状況にあって、参加者のお母さんたちがスタッフとして、事前のやりとりから、切符の購入、当日の受付、引率までを担当してくれました。

事前のやり取りはメールとLINEで。各家庭に連絡してもらって、受付がスムーズになるよう。当日は元気村のある東京都あきる野市まで引率してきて、とんぼ帰りです。みんな働くお母さん。お休みをとっての参戦です。しかも新幹線は自費です。

本当は受付だけをお願いしようと思っていたのですが、「この春は新幹線移動にチャレンジします」と発表した時点で大変になるだろう事を想定してくれていたようで、自主的に申し出てくれて実現しました。さすがの気遣いに脱帽です。

### 新幹線移動のメリット・デメリット

さすがに早いですね。新幹線。福島駅からあっという間に東京駅に。ただしバスと違って、荷物を子供たち自身が持つての移動になります。いつもは大きなスーツケースに1週間分の着替えを持ってきていた子が多かったのですが、それだと東京駅から宿泊場所のある武蔵五日市駅までの移動が大変。それだけの荷物を持つてくれるスタッフを確保することも難しい。

なので事前に各家庭に状況を説明して、衣類を3日分程度にしてもらいました。代わりにキャンプ中にコインランドリーで2度ほど洗濯。思ったよりも荷物はコンパクトで、自分で荷物を持つて移動することができました。

また子供たちの乗り換え負担を考えると、JR中央線の始発駅である東京駅まで行って、座って立川駅まで移動したほうが楽だろうということで、大宮駅ではなく、東京駅で乗換えをしました。ただ平日朝9時の東京駅。通勤の人でごった返しています。その中に荷物を転がした福島っこが16人。お母さんスタッフと、他の引率スタッフがいなければ、東京駅での乗り換えは難しかったかもしれません。

移動時間も、福島から東京駅まで1時間ちょっとなのに、東京駅から武蔵五日市駅まで2時間かかります。時間的メリットはあるような、ないような。ただし、あまりに早く着きすぎても、受け入れる宿泊施設側の準備が間に合わないので、ちょうどよかったのかもしれません。

コストも、東京からスタッフが前泊して迎えに行き、一緒に新幹線で戻ってくる費用を計上すると、大きくは変わりませんでした。

『出発日を参加者の都合で変えられること。』

これが最大のメリットだと思います。おかげでこれだけ多くの福島っこ参加することができました。

### **寒かった1週間。晴れても気温が上がらない。体調を崩さないために。**

今年の春のキャンプ、これまでで一番寒かったように思います。その前後の1週間は気温が上がったのですが、なぜだかこの週だけ寒い。おかげで暖かくして寝る工夫に追われることになります。

雨戸をしめたり、石油ストーブをつけたりするのですが、つけっぱなしにすると空気が悪く乾燥するし、喚起すると寒くてかなわない。ストーブを廊下にだして、中に向けるなど、色々やってみましたが、何人かの子は喉が枯れました。飴をなめたり、水分補給を促したりはするのですが、楽しくて気持ちも高ぶっていることもあってよくしゃべるものだから、とても喉を痛めやすかったと思います。

加湿器があればいいかな？とも思いますが、これだけ広い部屋を加湿するのも簡単じゃない。一人一個湯たんぽがあればとも思いますが、果てさてどうしたものか。来年の春に向けて色々対策を考える必要がありそうです。

### **子供たちの感性を刺激！多くの未知を福島っこへ！**

春キャンプの特徴は、水遊びが中心の夏とは違って、ゆっくりと何かに取り組むのに向いています。

この春は卒業を迎える子どもたちが沢山います。新たな世界に向かう彼らを後押しするような、いろんな刺激をうけること。彼らの将来の選択肢が少しでも広がればいいなと思い、以下の企画を実施しました！

- ① スタッフは何の仕事をしているのかな？ 『お仕事インタビュー』
- ② 未知の世界に質問！ 『南極とテレビ中継』
- ③ 好評につき今年も開催！ 『第2回元気村まつり』

以上の3本です！

#### **① お仕事インタビュー！**

前回の春キャンプからはじめました。大きくなってきた子どもたちに、いろんな職業の人から刺激をうけてもらえればと。キャンプを手伝ってくださる人たちの中には、めずらしい仕事をされている方が割りといます。

今回は・・・

- ・アウトドアインストラクター
- ・バリスタ
- ・パイロット
- ・お坊さん
- ・イラストレーター
- ・助産師

と、かなりバラエティーに富んでいます。子どもたちに班ごとにわかれて質問を考えてもらいました。

前回のお仕事インタビューは、いつも元気村でスタッフとして接している人が普段は何の仕事をしている人なのか？職業的な興味関心というより、子どもたちと大人たちの距離をもっと縮めることが主目的でしたが、今回は仕事への興味関心を満たすようなやりとりでした。

たとえば「世界にはどれぐらいの種類のコーヒーがあるのか？」、「パイロットは自家用ジェット機を持っているのか？」、「お坊さんは音をたてずにご飯を食べるのは本当か？」、「助産師には何の資格があればなれるのか？」などなど。

今回ほどバラエティーに富むスタッフを集めることは難しいかもしれませんが、引き続きとりくみたいと思わせるものでした。

## ② 南極とテレビ中継！

前回のJリーグ観戦招待に続いて、これも本当にご縁としかいいようがない話です。

ひだまりファームのある五日市地域には南極観測隊の方々は何名か住んでいらっしゃるようなのです。これは東京立川市にある国立極地研究所にお勤めの方々が、立川市の郊外にあたる五日市あたりを好まれるということなのでしょう。五日市近辺の仲間と定期的に行う食事会があって、そこでご縁をいただきました。

一度観測に旅立つと1年以上になることも普通のように、日本にいらっしゃる時にお話できた事もついていたと思います。

福島の子どもたちがキャンプで五日市にやってくるから、中継で子どもたちに南極の様子を見せてもらえませんかとお願ひしたところ、企画を立ててくださり、実現しました。

これは本当に大人も子供も大興奮です。むしろ大人の方が興奮していたかもしれません。いったいどんなところなのか？何が起きるのか？どれだけ寒いのか？星はどれだけ綺麗なのか？直ぐにいくつでも質問が思い浮かびます。

ただいきなり南極と中継といってもキャンプとの関連性がなく、子供たちがピンとこないかな？と思い、ちょっと策を練

りました。

まずこの企画はキャンプ前の子供たちには内緒にしておき、そして中継前日にみんなで南極に関する映画「皇帝ペンギン」をみてイメージと興味を膨らませました。

中継当日、初めてみる昭和基地。強い風が吹きすさみ、旗がたなびく。冷たいだろう風が白い粉をまきあげて吹いている様子をみただけでとても興奮します。昭和基地の内部や、働いている人々の様子も説明していただきました。

中継の映像を食い入るよう見る子どもたち、何を説明してもらっても、ただただ固唾を呑んで見えています。

質問の時間では、質問者が南極側の画面に映るように『みんな、ちょっと下がって！』って言うのだけど、誰も下がらない。みんな興奮していて、前に前にとでてくる感じです。

いろんな質問がありました。ペンギンに関すること。隊員の暮らしに関すること。どうやったら観測隊員になれるのか？ などなど。

本当に願っても叶わない貴重な時間をいただきました。

### ③ 第2回 元気村まつり

さて今回のメイン企画です。子供たちはこのおまつりのために、キャンプ2日目から準備をしてきました。

おまつりは、子供たちの側になるべく多くの決定権を渡しています。ただし「危なくないか」、「不可能ではないか」という、安全性と実現性の2点だけ大人が口を挟みました。

食べ物やさんもよし、遊興でもよし、3,000円の予算でできて、安全で、実現できるなら何でもありです。何をやるかは各班ごとに話し合い、候補を3つ挙げました。福島っこスタッフ以外、すべて食べ物やさんです。

1班 チョコバナナ

2班 フリフリポテト

3班 フルーツパフェ

4班 カフェ

5班 フルーツポンチ

福島っこスタッフ班 迷路で鬼ごっこ

ここに大人が緊急参戦！



村長 茶房ぼー（お茶とお菓子）  
調理班 オカップーズ（ごぼうスティック）

の全8店舗です。

キャンプの日程も、このおまつりを中心に決めています。おまつりが土日になるようにして、外からのお客さんが参加しやすいようにと。

さて、おまつりのルールはこんな感じです。

### おまつりルール

- ・各班ごとにお店を出店。
- ・各お店が売り上げ No1 を競う。
- ・お店は何屋さんでもよい。希望を3つだして、危なくなく、準備できるものをスタッフと相談。
- ・お店の準備に使える予算は3,000円。
- ・3,000円をオーバーしたら借り入れ。3,000円未満の場合は、差額を売り上げとして繰り入れ。

### お祭り当日

- ・お祭りで使う通貨は円ではなく、ボー。
- ・大人も、子供も、全員が1,000ボーを貰って、好きなお店で使える。
- ・ただしお店の売り上げで買い物してはいけない。
- ・また自分のお店で使ってもいけない。
- ・お祭り終了後に借り入れた額をボーで返済する。繰入額はボーでもらえる。
- ・最後に一番ボーを持っていた班が優勝！

です。

で、今回優勝したのは・・・

5班 フルーツポンチ

メンバーは去年の優勝メンバーと2名が一緒でした！優勝した彼らには元気村から図書券をプレゼント！

終わった後にみんなでふりかえり会をしました。なにがよかった点で、何がうまくいかなかったのか。次にやるときにはどんなお店をやりたいか、お願いしたい事・・・などなど。

要望として多かったのは、予算を増やしてほしいということと、10ボーや、50ボーといった、細かい単位のお札を用意してほしいとの意見。たとえばちょっとしたトッピングを追加したいとか、割引しやすいといった理由のようです。なん

だか本格的な意見ですね。

今回もおまつりはとても盛り上がりました。要因は、自由度の高さ、時間をかけて準備すること、競争する相手がいること、物売る・売れていくという楽しさといったところでしょうか。

以上、今回のこうした体験が子供たちを刺激していたらよいなと思います。さて次は何をして彼らを楽しませようかな？

### **みんなで卒業を祝おう！**

お伝えしたとおり、この春は22名が新しい扉を開きます。寄せ書きをみんなで書いておくりました。

新社会人になる4人は4月から出勤です。明日初出社の学生に、前日の夜、子供たちから手渡したりもしました。

大学生になる4人は3日目にキャンプを離れましたが、どうやら寄せ書きには気づいていなかったようです。子供たちから受け取るととても驚いていました。

高校生になる福島っこスタッフの8名。彼らのことは後でまとめて触れたいと思います。

中学生になる6人には、おまつりのふりかえり会の後、村長から卒業証書のように渡させてもらいました。ちょっとは待てばよいのにすぐに読むのですよね。寄せ書きを。しかもお友達のも全部。そのぐらい寄せ書きをもらうことにこだわりや、嬉しさがあるのだと思います。

そして彼らの卒業を祝うお祝いのケーキ。今回は地元のボランティアの方が5台も、しかも生クリームの手作りケーキをみんなにプレゼントしてくださいました。卒業する子供たちには特別なメッセージつきです！

それだけではありません。今回はキャンプ中にみんなで共同制作をしました。「ふくしまっこ元気村キャンプ」の文字を和紙造形で制作しました。元気村には旗というシンボルがありますが、新たなシンボルもできました。

旗とこの和紙アートをもって写真を撮ると、とてもよい感じですよ。春に卒業を祝うにふさわしい写真が撮れるようになりました。

### **足りない運営スタッフ。でもみんなの協力で乗り切れる！前に進める！**

今回のキャンプはこの事をとても強く感じるキャンプでした。冒頭のお母さんスタッフもそうですが、様々な人たちが、私たちの状況に合わせて手伝ってくれます。

ボランティアスタッフの募集は、まずこれまで手伝ってくれた人たちに宛てたメールを送ります。その際に、特にこちらが手伝ってほしいことを伝えます。たとえば今回だとこんな感じです。

==メールの文面抜粋

【特に必要としている事！】

■ 3月27日（月）

今回、行きは新幹線移動、帰りはバス移動になります。そのため初日の3月27日（月）に・・・

→ 朝9時頃、東京駅で子どもたちと合流し、一緒に武蔵五日市に移動してくれる方

→ 11時30分頃、武蔵五日市駅で車に子どもたちを車に乗せて、下さる方

■ 3月31日（金）

この日はお祭りの準備で買い出しにでかけます。ひだまりファームから、イオンモールまで車で載せて下さる方。

■ 4月1日（土）

この日は元気村まつりです！お祭りは大勢人がいた方が断然盛り上がります。

遊びにくる感覚で沢山の方にいらして頂けると嬉しいです！

まず初日の3月27日。運営スタッフ、お母さんスタッフ以外に、郡山から子供たちを引率して下さったボランティアの方、朝の東京駅で待ち合わせして、子供たちを送り届けてとんぼ返りで戻られたボランティアの方もいらっしゃいました。

31日は平日です。この日に車が7台集まりました。おかげでスタッフと子供たち25人を一度でイオンモールまでおまつりの買い出しにつれていき、戻ってこれることができました。

1日の元気村まつり。少人数でなく、多くの方に遊びにきて頂くと断然もりあがります。今回はお子さん連れのご家族も含めて10名の方が参加。子供たちの準備を手伝って下さったり、参加者として一緒におまつりを楽しみました。

**新たに始まりました強力助っ人！スポットボランティア！**

これ、今回のキャンプから取り組みました。前回の夏キャンプ、地元の方たちが手伝って下さったのですが、近いこともあって、一日参加できない日でも、たとえば朝だけとか、朝きてまた夜手伝うとか、はたまた初日のお迎えに車をだしてまた夜戻ってきますとか、所々参加できるところで手伝ってくださいます。

そしてこのみなさん、地域の活動なのか、子供たちの行事にとでもなれていらっしゃるって、食事でも、なんでも本当に手際がよいといえますか。昼の準備に来ていただいて、時間が余ったので夜の準備もあらかじめ下さるなど、1週間を

通して平均的にスタッフ数を確保するのが難しい私たちにとって、とても心強い助っ人でした。

パッと車でやってきて、調理が終わったと思ったら、食べる時間もなくサッと去っていく。みなさんお忙しく、なかなか食事も一緒にできませんでしたが、本当に助かりました。

## 福島っこスタッフ

さて、彼らのことに触れねばなりません。この8名、元気村が始まった頃のキャンプに参加していた子たちです。1番最初のキャンプには小学校4年生で参加していました。まあ何と申しますか、思い出がたくさんあります。

私たちは有志の集まりで、もともと野外キャンプを専門にする集団ではありません。震災が起きて、緊急的にこうした自体に向き合うことになりました。

そのあたりのことはこちらで触れています。

福島っこ元気村キャンプについて

<http://genkimura.letsgoout.jp/purpose/>

最初の2012年春の元気村キャンプで、1年間外遊びができなかった彼らがグラウンドを飛び回ったときに見せた笑顔。その笑顔を見て、こんなに喜ばれる事が世の中にあるのなら是非続けようと思いました。

2012年春 福島っこ元気村キャンプ

<http://genkimura.letsgoout.jp/2012/04/04/2723/>

その時はもうすべてが手探りでした。安全管理や、生活面、今から考えればいろんな事を知識や経験のない私たちがなんとかやりくりしていたという感じでした。そのぐらい当時の福島は切迫していました。

多くの子供たちが中学生になると、キャンプに参加する回数が減ります。中学生は部活や、学校の行事が多いこと。部活の参加状況が評定にも影響すること。周りの家庭や友達との関係もあって、しばらく顔を見ない期間が続きました。

その子たちが僕らのことを忘れずにいてくれて、キャンプを手伝いにきてくれたこと。続けてきて本当によかったと感ずることができる出来事でした。

彼ら、事前にLINEのグループをつくって、なにをどうやるか相談していたようです。僕らのほうも彼らがキャンプの中で役割を担えるように「福島っこスタッフ班」と名づけ、生活の重要な部分をサポートする体制に組み込みました。

<b>村長</b>	<b>こども班</b>	<b>医療担当</b>
ほーちゃん キャンプの責任者	ゆりりん 子供たちが楽しく過ごせるように	(ボランティアスタッフ) 体調・薬・保険証の管理と医療対応
<b>キャプテン</b>	<b>調理班</b>	<b>女子担当</b>
(日替わり) その日のリーダー	ピロさん 食事の準備・配膳	(ボランティアスタッフ)
	<b>調達班</b>	<b>男子担当</b>
	ピロさん 食材・物品の購入・調達	(ボランティアスタッフ)
	<b>活動班</b>	
	ヤマミチ 活動の準備と片付け	
	<b>福島っこ班</b>	<b>衛生担当</b>
	こうき・だいじゅ キャンプ全般のサポート	2名 手洗い・うがい・食卓準備・備品補充
	<b>ボランティアスタッフ担当</b>	<b>洗い物担当</b>
	ほーちゃん VSへの説明・ケアなど	2名 食後の洗い物を子供たちと一緒にする。
	<b>会計担当</b>	<b>生活サポート</b>
	ほーちゃん お金の支払い・管理	2名 布団の確保と整理・飲み物の補充・お風呂の準備
	<b>記録担当</b>	<b>調理サポート</b>
	ほーちゃん/ボランティアS 写真・動画の撮影	2名 調理班、子供たちと一緒に食事作りを行う
	<b>広報</b>	
	ほーちゃん/ピロさん ブログ・SNSなどへのアップ	

彼らに対する感想は「本当にスタッフとしての意識が高かった」です。手伝おうとする気持ちがとてもあって、僕らもつい彼らをあににしてしすぎてしまう部分があったと思います。

8人それぞれ、得意なこと、キャラクターは異なるのですが、僕らのほうをみてくれていて、何かをしようという気持ちをととても強く感じました。これからのキャンプ、彼らがいないとすると、さあ大変かな？

ただみんな高校生になって、今しかできない事がたくさんあります。そうしたことを是非優先してほしい。僕らのことは余った時間で考えてくれればもう十分です。そのぐらい助かるスタッフでした。

なおこの春のキャンプ、すべてのスタッフは述べ61人。161/人日の稼働でした！  
スタッフの皆さん、大変お疲れ様でした！またありがとうございました！

### 余談：個人的なふりかえりを少し

これまでの10回のキャンプで忘れられない出来事というのがあります。今回の福島っこスタッフとのそれもいつまでも

覚えていると思います。

以前キャンプで中学生になる子に「キャンプにこられなくなっても僕らはずっと覚えているから、困った事があれば相談しておいで。」というような事を伝えようとしたことがありました。ただそうした機会を設けず、なんとなくどこかで話そうと思っていたのですが、うやむやに終わってしまいました。その事を後悔しています。伝える事ができるときに伝えなければもうその時はこないかもしれない。

今回、この子達がやってくるにあたって、彼らに伝えたいこと。彼らのことをどう見ていたのか、それぞれどういうよい面をもっているのか、そしてそれがどのぐらい素晴らしく彼らの将来にとって大切なことか、最後の日の夜、彼らに伝えました。いや、伝えつつもです。

こっちは小さいときから彼らを知っているのです。久しぶりに会う子ほど、どういう成長を遂げたのか違いがよくわかりました。みんな見た目は大きくなっていても、子供のときにもっていたそれ、特徴というか、性質というか、その部分がそのままに大きくなっていました。どういうわけか自分でもわかりませんが、これはとても嬉しい気持ちにさせられました。

その後、寝ていると彼らに起こされて、囲まれるようにして彼らひとりひとりからメッセージをもらいました。寝ぼけ眼で聴いたこの言葉は私にとっての宝物です。

この日の出来事は、人と人は気持ちを互いに通じ合わせることができると感じられる瞬間でした。

私は今年で45歳になります。だんだんと老いていく父母を見る一方、5年前には夜中に泣いて家に帰りたがったのが今や立派に自分の意志を述べ、行動することができる彼ら。

枯れてやがて朽ちゆく木々と、ぐんぐんと幹が太くなり、力強く大地に根を張り、枝から葉を茂らせる木々。その勢いよく伸びる木々のような彼らも、いつかはやがて枯れて朽ちます。盛者必衰の理です。いや使い方が違うのかな。散る桜 残る桜も 散る桜でしょうか。

この2つをまざまざと見せつけられ、人は何のために生きるのか感ぜずにはいられません。必ず朽ちはてるのに、なぜこうも生命は輝く瞬間をもっているのか。

極端ないいかたですが、人にできることは、受け継ぐこと、それを磨くこと、そして託すこと。これしかできない。どんなにたくさんのことにこだわって、多くを手に入れ、思うままに生きても、最後には託す以外ないのです。

子供たちが何を受け継ぎ、どう磨いてゆくのか。その選択肢や、可能性が少しでも増えるような取り組みについては、引き続き力を入れたいと感じました。

ああ、それにしてもあいつらと風呂に入って馬鹿話しをしたのはなんとも楽しかったし、嬉しかった！！

### **参加費と資金集め。クラウドファンディングへの挑戦。**

この春にたくさんの福島っこがやってくるのがわかっていましたから、いくつか対策を考えていました。大型バスにしようと思えば費用が膨れ上がると思い以下のように考えていました。

- ・現地までの交通費を自費にする。
- ・かわりに参加費はなし。

ただそうすると中学生の子供たちの自費負担が大きくなります。これまで一律 1 万円の参加費でやってきましたが、中学生以上は交通費が約 1 万 8 千円とおよそ倍ぐらいになってしまいます。これを「なんとか一律 1 万円を維持できないか？」とお母さんから要望がありました。どの子も参加できるようにとの配慮です。

資金について、私たちが自助努力で集められる金額は 25 万円ぐらいだろうと考えていましたから、さらにこの上乘せ分を会で負担するとなると、今回のキャンプはよかったとしても、この先にキャンプを続けてゆく道が狭まってしまうかもしれない。

ならどうするか？ これまでは知り合いの知り合いぐらいの距離の方々に寄付の呼びかけを行ってきましたが、もっと広く、より多くの人たちに共感をもって元気村を支援してもらおうと考えました。また、みんなで寄付を呼びかけたときにいくら寄付が集まっているか進捗がわかりやすい方が協力しやすいだろうと思い、クラウドファンディングに挑戦することにしました。

ただこの話ができたのはキャンプ 3 週間前ぐらい。急遽知人をあたって準備を進めました。そのためにキャンプ中もお金集めをするという状況でした。4 月の下旬まで続ける予定です。

### **Amazon で物資も募集！たくさんの品物、ありがとうございます！**

これは数回前のキャンプから始めました。クラウドファンディングを始めるまで、寄付は銀行振り込みか手渡しのみでした。もっと手軽に支援してもらえる方法を用意したいと思ったのです。今回も数多くの物資の支援を頂き、合計で 13 万円を超える品物を頂戴いたしました。

今回はキャンプにボランティアにいけないから、物品を寄付しますという方もいて、私たちのことを忘れずにいてくださることを実感します。

保養キャンプをしている人たちにこの Amazon の話をするのですが、みなさんよいと思っけていても、やり方がわからないみたいで。この文章を読んで、やってみたいと思う方がいらっしたら具体的にお教えしますので、是非ご連絡ください。

## 最後に

繰り返しになりますが、この春のキャンプは運営するスタッフが少ない中、世の中の被災地への関心の低下が懸念される中、まだまだやってゆけるぞ！と強く勇気づけられるキャンプでした。

今の縁、かつての縁、新らたな縁、すべてにおいて私たちを気にかけてくださっている方がいることを実感しました。

またその人々の中には、ご自身の状況が変化しても、支援の形を変えながらつきあってくださる方々がいること。

参加者や、支援者といった言葉の区別の分け隔てなく、それぞれの人が、それぞれの立場でできることをこのキャンプのためにしていること。

こんなに多くの方がこのキャンプのために、子供たちのために、福島のために何かしたいと思っていることがよくわかりました。

そうした思いを実感することで、少々大変なことがあっても私たちは前に進むことができます。みなさんの思いに応えたいです。

いつも最後にはみなさんへの感謝の言葉しかありません。

どうか今後ともみなさんそれぞれの状況を優先して、できる範囲で私たちのことを覚えていてくださればなにより嬉しく思います。

この度のご支援、誠にありがとうございました。

以上